

解説

青少年を守る愛の条例
良いものを推奨
悪いものを禁止

次の世代のいない手である青少年が、心身ともに健康に成長されるよう「茨城県青少年のための環境整備条例」がつくられ、四月一日から実施されます。

そこでこの条例をみんなが理解して、新たな自覚と責任において、青少年のために、よい環境がつくられるよう条例とその解説をとりあげてみました。

目的

この条例は、児童憲章の理念に照らし、青少年の健全な育成を図るため、これを阻害するおそれのある行為を防止し、青少年のための環境を整備することを目的とする。

(第一条)

青少年が人として尊ばれ、社会の一員として重んじられ、よい環境のなかで育てられなければならないことは児童憲章にあらわれないことであるが、この条例は青少年の健全な育成を阻害するおそれのある行為を防止し、環境を浄化することを目的として定められたものである。

県民の責務

不良のきっかけは「盗み」から有っていくといえるようである。また、これは現行の少年法と少年院法が施行されてから十五年目にあたります。

家庭の影響

少年がこうした非行をするようになる原因については、専門的な立場からいろいろいわれております。一般的にいえますことは、

多くなつた少年犯罪

00 家庭の関心と愛情が力に

少年がこうした非行をするようになる原因については、専門的な立場からいろいろいわれております。一般的にいえますことは、

少年がこうした非行をするようになる原因については、専門的な立場からいろいろいわれております。一般的にいえますことは、

少年がこうした非行をするようになる原因については、専門的な立場からいろいろいわれております。一般的にいえますことは、

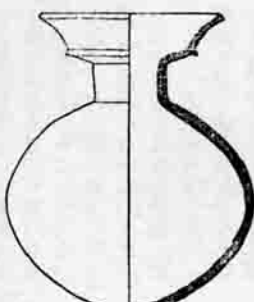
少年がこうした非行をするようになる原因については、専門的な立場からいろいろいわれております。一般的にいえますことは、

五世紀中ごろのものと推定
佐自塚古墳のあらまし

二月十一日から二週間にわたって、佐自地内「佐自塚」古墳の発掘調査が実施されました。古墳は、佐久部郡から東西に水田を囲み、南



前方部 二七米
前方部高 四・三米
調査の第一目標は、主部(遺骸埋葬の場所)の確認です。定石通り前方部後部部の中央にそれぞ



茶白山式土器 (奈良塚古墳出土)



次に、埴輪配置の有無についてその探索を目的として、奈良塚古墳の前方部、また土師器と同型式の穿孔土師器と同一式のものがあり、関東では埼玉県に数例報告されているが、本県では前記「奈良塚」古墳に次いで二番目の発見であり、完形品としては唯一のものである。

この場合は、世帯主が本人が資格取得の届出をすることになっておりますので、社会課に申し出て手続きしてください。

国民年金だより

六カ月以内に請求しないともうえない未支給年金
老令福祉年金をうけていた方が死亡したときは、ご遺族のよう

形式的な埴輪づくりに終始したと考えられる中央文化圏とは、おのずから趣きを異にしており興味ある研究課題をあたえている。



園部で 耕うん機競技会ひらく

園部農青農研連合会（会長宮守正）では、3月8日園部出張所うらの乾田で、町と園部農協の後援を得て当町初の耕うん機競技会をひらいた。

この日は初春の好天に恵まれ、14名の選手が自分の愛用の耕うん機を運転して会場につめかけ、大ぜいの見物人が見守るなかで、きめられた面積を合図によって、きめられた時間でじょうずにたがやして技を競いあった。園部地区には耕うん機が約250台もあって機械化がたいへんすすんでおり、技術講習をかねた競技会の企画が昨年からだてられていました。他にさががけて行なわれたこの競技会は、なかなかの好評で技術向上に大きな役割をはたした

この日の競技成績は、町農業改良普及所で厳密な審査の結果、次の方々が賞をうけた。

◇1等 永井俊郎、◇2等 長谷川勇、大槻清、◇3等 長谷川一夫、金子豊、長谷川雅雄
◇努力賞 酒井良三郎、山田義孝、金子清、飯島忠(写真は競技会にはりきる選手たち)



が胃の健康診断を
実施しました。

この胃ガン検診
車は、全国でも数
少なく、関東では
本県のほか、千葉
神奈川の二県だけ
で、本県では、昨
年十月からの運行
の検診能率から見
て、年間一万人の
予定で運行してい
ます。

当町では、三百
名の割り当てとし
たが、希望申し込
みが多かったこと
から、土曜日の機

五月上旬頃に、第二回の実
施予定をしています。
四百名を実施した検診の結
果は、次のとおりです。

○精密検査を必要とする者
一二一名 三〇・三%

○注意を要する者
三〇名 七・五%

○異常なし
二四九名 六二・二%

今後検診をうけるにあたっては、正確な結果が得られるように、当日は朝から検診が
終るまで、何もたべないこと
など、注意をよく守ってくだ
さい。

うと緊急役員会を開いて、各地区団員が出しあった金品をまとめて二月十一日、社会福祉協議会に寄せられました。

社会福祉協議会では、さっそく青年団のまごころの金品（一万七千五百六十円、毛布一枚、ジャンパー一着）を贈って慰問しました。

三年ためた一円と五円玉
渡辺さん（瓦中三年）

学校へ寄付

瓦会中学校三年の渡辺澄子さん（野田）は、一円玉と五円玉に手紙をそえて学校に寄せられました。

学校では、これを福祉事業

町保育所
園児募集

町保育所では、新しく四月から入園する園児二十一名の募集を行なっています。

希望者は社会課と保育所に申し込み用紙がありますから三月二十五日までに役場に申し込んでください。

保育所へ入所できる基準は次のとおりです。

①母親が昼間家庭の外で仕事をするのが普通である。

②母親が家庭で児童とはなれて仕事をするのが普通である。

⑥火災などの災害によって、その復旧のために母親はもちろん、家族の人も保育ができない。

以上六つのうちの一つに該当すれば入所できるわけですが、くわしくは社会課におたずねください。

~~~~~

長堀百寿会へ  
稲田さん二千元おくる

柿岡長堀区の稲田友衛さんは父久作さんが二月二十八日亡くなられ、その葬儀を執行されましたが、費用の一部より区の百寿会へ二千元を寄付。老人たちから喜ばれています。

四百名が受診

もれた方は四月末か五月頃

胃ガンなど成人病については、二月号広報紙の「成人病予防と健康」に掲載しましたので、おわかりと思います。

県対ガン協会のレントゲン車

れられているガンを集団検診によって、早期に発見しよう

と二月二十二日より三日間、

械整備の一日を追加して、四

百五十名の予定者の受けつけ

になったわけです。

それでも約三百名のかたが

成人病のうちでも、最も恐ろしいのは、胃がんによるものです。胃がんは、日本では、癌の死者の第一位で、毎年約10万人が死亡しています。胃がんは、早期発見・早期治療で、治癒率が高いため、胃がん検診を受けることが、胃がんを予防する最も有効な方法です。胃がん検診は、胃の健康診断を実施しました。五月下旬頃に、第二回の実施予定をしています。

この胃ガン検診 四百名を実施した検診の結果は、次のとおりです。

○精密検査を必要とする者  
少なく、関東では  
本県のほか、千葉  
一・二名 三〇・三%

神奈川の二県だけで、本県では、昨

○注意を要する者

三〇名

七・五〇

年十月からの運行  
の検診能率から見  
○異常なし  
三〇名  
七五名  
六二名

て、年間一万人の  
予定で運行してい  
今後検診をうけるにあたつ

ては、正確な結果が得られるように、当日は朝から検診が

名の割り当てでし  
終るまで、何もたべないこと  
など、注意をよく守ってくだ  
たが、希望申し込

みが多かったこと  
さい。  
から、土曜日の機

大  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

④  
**改善の  
 すすめ方**

前回では農業構造改善事業と取りくむにはまず基幹作目をきめなければならぬ、と述べましたが、当町ではまだ決定の段階に至っていないこと、いろいろな条件から検討しなければならぬこと、などについて述べました。

当町は半山間地の立地条件から、農林省の方針である土地基盤整備事業に総事業費の四十パーセント以上を消化することにむずかしさがあり、その上、農業団体にも農業者個人にも呼応体勢に不十分な

ものがある実情から、町内各方面に「構造改善事業はあせらずにやるべきだ」という意向が強いので、これには気長にとりくみ、さしあたり別に進められている農協合併の成功に大きな期待をかけるべきでしょう。

**構造改善事業の  
 農協の役割**

農業振興のために、農協の受け持つ役割がいかに大きいかは、いまさくどくど申す必要もないでしょう。

農協が組合員のために、自主的に活発な構造改善の活動をしている実例もないわけではないが、そうした積極さを失っている農協もまた少なくありません。

ことに、市町村があげて構造改善事業と取りくむことに

# 合併から

なれば、農協は各種の共同施設の事業主体とならなければならず、また組合員に対して相当多額な事業資金の融通機関ともならなければなりません。

## 合併農協のすがた

当町では一昨年から農協合併の話し合いがはじまり、昨年六月には農協合併促進協議会が結成されて着々と合併準備が進められていましたが、前記のように当町のまわりの情勢も農協の整備強化をいよいよ必要としてまいりました。

もちろん農協の合併は、組合員の自主的な意向で実現すべきもので、町当局や合併促進協議会の必要や希望でむり押しできるものではありません。だが、一日も早く成功することが、当町の農業振興の

これにこたえ得る農協がなければ、農業構造改善事業は実施できないということがでます。ここに構造改善事業の実施を前に、各地で農協合併が行なわれている大きな理由があるのです。

大きな条件となることにまちがいないので、皆さんに十分議論検討をしていただき、全組合員合意の域に達したいものです。

以下予想される合併農協のすがたについて、おもなところをのべてみましょう。

### 合併したら組合員の不便にならないか

町村合併では支所を廃止させられて住民には大へん不便になった、農協合併でもだんだん支所を廃止されたり、支

所はおくにしても職員を減らすことは出来ないのである。それでサービスが悪くなるのではなからうか、との不安があるようですが、農協合併は本来組合員のためのもので、組合員の便益を犠牲にすることはできません。

支所の配置職員は、もとの農協にくらべて少数の管理的業務を担当していた職員は本所に吸収されますが、その他の窓口業務や、現業にあたる必要な職員は、そのまま残るのは当然です。

購買、販売、利用、貯金などなら不自由をかけることはありません。

貸付けもある一定のワクを定めて、そのワク以内は支所長の権限とされ、ワク外は本所扱いとなるが、相当多額の金額でも融通されることになっておりますので、組合員にはいたって有利になるわけです。

(つづく)

冬ごもりで制限されていた蚊やハエの繁殖は、三月になると、満を持していたかのように、急に成育繁殖をはじめます。

成虫は、冬のかくれ家から飛び出し卵を産み、卵やさなぎは成長活動を開始します。

そのため春先の蚊、ハエの対策は、とくに発生源対策に重点をおかれます。

**発生源対策**

①ハエの発生場所としては台所のくずなどですが、これらのものは密閉されたコンクリートのゴミ箱などを設置して、その中に捨てるようにします。

畜舎は、最大のハエの発生場所とされていますが、床や土台をコンクリートで改築して、しきわらは毎週定期的に交換することが大

事なことです。

②ゴミをごみ箱に捨てたこと  
によって、ことたれりと思う  
ことはまちがいで、各人がご  
みの処理に注意して、最少限  
のごみを排出するように心掛  
けたいものです。

また、畜舎から出されたし  
きわらは、きゅう肥として完  
全につみあげ、露出部には、

成育はじめる蚊  
駆除運動

ビニール（内側に残効性のある  
薬剤をふんむしておく）を  
おおい、きゅう肥内のウジを  
殺すとともに、新しい産卵を  
防ぎます。

薬剤散布

蚊とハエの発生場所を調べ  
てみますと、ほとんどが人間  
生活によって作りだされた

ところから、発生してまいります。

そのため、どのように施設改善と発生場所の整理につとめても、蚊やハエはしつこく発生します。

この場合、殺虫剤を使用することになりますが、薬剤を使うときは、次のことに注意いたしましょう。

とハエ

場も活動開始

- ① 定期的に、地域全体が一せいに散布すること。
- ② 蚊やハエの生態、習性を研究して、薬剤のまぜかた、うすめかたや散布量を正確に実施すること。
- ③ 薬剤の特長、欠点をよく知って、対象昆虫により選択をあやまらないようにする。
- ④ 農薬は使用しないことと

薬剤を取扱う人は、薬害に對して慎重にすること。

①施設改善

發生源対策と、適切な薬剤の散布をしてゆくことが、蚊、ハエ駆除の事業では、両輪をなすものですが施設改善は着実に計画を進め一時的なものから恒久的なものに、きりかえてゆくことが必要なことです。

便所の汲取口を二重ぶたにしたり、窓に金網を張ったりすることから、三そう式便所の設置にと、事業の目標をおきかえてゆきたいものです。

農家でよくみられる屋敷付近にある肥だめなどは、全部廃止して、蚊、ハエ、寄生虫の対策ばかりでなく完全施肥策として、今後の農村のあり方として考えたいものです。

